

I 調査実施の概要

1 調査目的

市民の生活環境に対する評価、市政への関心、要望、意見などを把握し、銚田市発足後、最初の総合計画を策定するための、基礎的な資料を得ることを目的とする。

2 調査設計

- | | |
|----------|---------------------------------|
| (1) 調査地域 | 銚田市全域 |
| (2) 調査対象 | 銚田市在住の満 18 歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 5,000 人 |
| (4) 標本抽出 | 住民基本台帳からの無作為抽出 |
| (5) 調査方法 | 郵送による配布・回収 |
| (6) 調査期間 | 平成 18 年 2 月 2 日（木）～ 2 月 14 日（火） |

3 調査内容

- (1) 居住環境について
- (2) まちづくりについて
- (3) 市政への関心について
- (4) コミュニティについて
- (5) 施策について

4 回収結果

- | | |
|-----------|---------|
| (1) 標本数 | 5,000 人 |
| (2) 有効回収数 | 1,830 人 |
| (3) 有効回収率 | 36.6% |

5 報告書の見方

- (1) 図表中の n とは、回答者総数（または該当質問での該当者数）のことである。
- (2) 集計は、小数点第 2 位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が 100.0% ちょうどにならない場合がある。
- (3) 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると 100.0% を超える場合がある。

6 標本誤差

今回調査は、調査対象となる母集団（銚田市全域に住む満 18 歳以上の男女）から一部を抽出した標本（サンプル）の比率等から母集団の比率等を推測する、いわゆる「標本調査」を行っている。したがって、母集団に対する標本誤差が生じることがある。

標本誤差は次式で統計学的に得られ、①比率算出の基数（n）、②回答の比率（P）によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(100-p)}{n}}$$

N = 母集団数
 （銚田市の 18 歳以上人口 = 44,207 人）
 n = 比率算出の基数（回答者数）
 p = 回答の比率（%）

例えば、回答者総数（1,830 人）を 100%とする比率について、ある質問の回答の比率が 50%であった場合の標本の誤差を計算すると、

$$\pm 1.96 \sqrt{\frac{44,207-1,830}{44,207-1} \times \frac{50(100-50)}{1,830}} = 2.24$$

したがって、±2.24%が誤差の範囲となる。

つまり、回答者総数（1,830 人）を 100%とする比率で、ある質問の回答が 50%のとき、銚田市民（満 18 歳以上）のこの質問に対する回答は、47.76%～52.24%の間にあると考えてよい。

今回の調査結果の標本誤差は下記のようになる。

	回 答 比 率				
	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
1,830 票	±1.35	±1.80	±2.06	±2.20	±2.24
1,000 票	±1.84	±2.45	±2.81	±3.00	±3.06
500 票	±2.61	±3.49	±3.99	±4.27	±4.36
200 票	±4.15	±5.53	±6.34	±6.77	±6.91
100 票	±5.87	±7.83	±8.97	±9.59	±9.79
50 票	±8.31	±11.08	±12.70	±13.57	±13.85

（この表の計算式の信頼度は 95%である。）